

# 豊明市行政評価制度 「事務事業」評価票

## 1 事務事業の概要

1-1 事務事業の名称	生活道路整備事業（主要事業）							
1-2 担当	部	経済建設部	課 又は施設	土木課	係	土木係	評価票作成者	道路整備担当係長 兼子 定治
1-3 総合計画における施策の体系	①節	都市基盤・産業振興 「いきいきとした賑わいと活力あふれるまちづくり」			③基本施策	道路	コード	3-1-1
	②項	道路・交通			④単位施策(中)	生活道路の整備	コード	3-1-1-2
					⑤単位施策(小)	道路側溝蓋の設置推進	コード	3-1-1-2-3
1-4 事務事業の目的の精査	対象と対象の数	蓋付き側溝の推進 毎年3km/25路線		意図（対象を事務事業によってどのような状態にするのか）		道路側溝の経年劣化の改善と道路面との段差を解消するため、蓋付き側溝への整備を実施する。		
1-5 事務事業の内容	側溝整備は、区長土木工事要望書（毎年8月31日〆切）で申請された内容を調査した後、土木工事認定委員会で審査し認定された路線の整備を実施する。							

## 2 事務事業実施の状況

2-1 事務事業の実施における基本認識	事務事業実施にあたって心がけた改善の取組み		社会状況等の事務事業がおかれる環境把握		市民ニーズの認識	
	平成18年度	東海豪雨後の側溝貯留と流下能力の増進を図り、安心して使える側溝整備を実施した。	財政難による予算確保が厳しい中、工事費のコスト削減を図り早期の工事完了が求められている。	日常生活で利用する生活道路が安全で安心して使用することができる要望が多い。		
	平成19年度	歩行者及び通行車両の安全確保を重点に側溝整備を実施した。	〃	〃		
	平成20年度	交通弱者及び通行車両の安全確保を重点に側溝整備を実施した。	財政難による予算確保が厳しい中、工事方法の検討を行い早期の工事完了が求められている。	〃		
	平成21年度	〃	〃	〃		
	平成22年度	交通弱者及び通行車両の安全確保を重点に、道路側溝の経年劣化の改善と道路面との段差を解消するため蓋付き側溝への整備をし、安全で安心して使用することができる生活道路整備に努めた。				
	平成23年度	交通弱者及び通行車両の安全確保を重点に、道路側溝の経年劣化の改善と道路面との段差を解消するため蓋付き側溝への整備をし、安全で安心して使用することができる生活道路整備に努めた。				
	平成24年度	交通弱者及び通行車両の安全確保を重点に、道路側溝の経年劣化の改善と道路面との段差を解消するため蓋付き側溝への整備をし、安全で安心して使用することができる生活道路整備に努めた。				
	平成25年度					
	平成26年度					
平成27年度						

2-2 総合計画における単位施策成果指標	事務事業成果指標名		前期目標値(単位)	後期目標値(単位)	指標の説明	
	蓋付き側溝の年間整備延長 (km)		3.0 (km)	3.0 (km)	車道の『安全で身近な生活道路』を整備する目的で、市内の蓋無し側溝を計画的に布設替えし利用者の満足度が得られるよう年間整備延長を設定した。	

2-3 成果指標に係る活動実績とコストの推移（アウトプット分析）	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
	活動実績 a (単位)	2.4 (km)	1.9 (km)	1.3 (km)	1.8 (km)	1.7 (km)	2.5 (km)	1.7 (km)		
	直接事業費 b (千円)	125,061	99,668	53,700	71,426	66,384	82,227	65,733		
	人件費 c (千円)	12,533	9,943	6,690	9,363	8,835	12,765	8,967		
	合計コスト d (b+c) (千円)	137,594	109,611	60,390	80,789	75,219	94,992	74,700		
単位コスト d/a (千円)	1km当たり 57,331	1km当たり 57,690	1km当たり 46,454	1km当たり 44,883	1km当たり 44,246	1km当たり 37,997	1km当たり 43,941	当たり	当たり	当たり

アウトプット実績（活動数値）の補足説明 → 活動実績=H24年度整備延長（1.7km） 直接事業費=H24年度（道路側溝改良+道路改良）工事費 人件費=1.5人×5,978（千円）

2-4 成果指標に対応する実績と達成度の推移	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
	指標対応実績 (km)	2.4	1.9	1.3	1.8	1.7	2.5	1.7		
後期目標値に対する達成度 (%)	80.0	63.3	44.5	60.0	56.7	83.3	56.7			

### 3 ■ 事務事業の自己評価結果

3-1 評価結果 (アウトカム自己分析)	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
単年度担当課評価	A	A	A	A	A	A	A			

- 4段階評価結果
- A : 上位目的である施策に貢献しているので継続する
  - B : 事務事業の実施手法や環境 (予算的・人的) に改善が必要
  - C : 縮小等、事務事業としての見直しが必要
  - D : 事務事業の廃止が相当

- 判断の基準
- ①必要性 (必要な事務事業であるか)
  - ②公共性 (公が実施する意味があるか)
  - ③妥当性 (ニーズに対して投入が適正か)
  - ④効率性 (結果に至る活動に無駄はないか)
  - ⑤有効性 (活動の結果が上位の目的に貢献しているか)
  - ⑥市民満足度 (事務事業が対象にしている市民を満足させているか)

3-2 評価の内容	今後の環境変化を踏まえた課題認識	次年度に向けて改善する取組み	事務事業の担当課としての単年度の取り組みの自己評価
平成18年度	財政難により予算確保が困難であり、施工延長増進に不安である。	緊急性のある路線から順次整備して行く。	年度当初計画した発注プラン通り実施を行うことができた。
平成19年度	当該年度予算の減額により、施工延長の減が始まった。	コスト削減を図るため工法検討を行い、緊急路線から整備して行く。	〃
平成20年度	予算の確保が難しくなった。	内容を見直し危険箇所より整備する。	〃
平成21年度	〃	〃	〃
平成22年度	限られた予算の中で、コスト削減を図るために工法検討を行い、それを反映した年度当初計画通りに発注し施工することができた。		
平成23年度	限られた予算の中で、コスト削減を図るために工法検討を行い、それを反映した年度当初計画通りに発注し施工することができた。		
平成24年度	限られた予算の中で、コスト削減を図るために工法検討を行い、それを反映した年度当初計画通りに発注し施工することができた。		
平成25年度			
平成26年度			
平成27年度			

### 4 ■ 事務事業の総合評価結果

4-1 総合評価の結果	結果	審査会による改善方向の指示
平成18年度	A	継続して事業を進めること。
平成19年度	A	継続して事業を進めること。
平成20年度	A	継続して事業を進めること。
平成21年度	A	継続して事業を進めること。
平成22年度	A	継続して事業を進めること。
平成23年度	A	継続して事業を進めること。
平成24年度	A	継続して事業を進めること。
平成25年度		
平成26年度		
平成27年度		